

Child Assault Prevention

参加型学習(参加・尊重・守秘)

1. 子どもがあう暴力と気持ち
2. なぜ子どもは暴力を受けやすいのか？
3. CAP 子どもワークショップの模擬体験

① 就学前プログラム(ワークショップ 20 分+トークタイム 30 分) X 3 日間

1 日目	2 日目	3 日目
けんりの概念 子ども対子ども(いじめ) 寝る、食べるのまね 安心・自信・自由のけんり ストレッチ 子ども対子どもロールプレイ 「いや」と言う練習	知らない人対子ども (人形劇) 1 人より 2 人は強い 知らない人とは話さなくてもいい 安全な距離と特別な叫び声 逃げることと大人に話すこと 護身術の練習	知っている人対子ども (いやなさわられかた) からだの名前(歌) くすぐりロールプレイ キスロールプレイ 大人に話すロールプレイ いや！逃げる、相談の復習

② 小学生プログラム(ワークショップ 60 分+トークタイム 30 分)

子どもの権利～特別に大切な 3 つの権利 安心・自信・自由

○ロールプレイと話し合い **【いじめ】**(子ども同士の暴力)

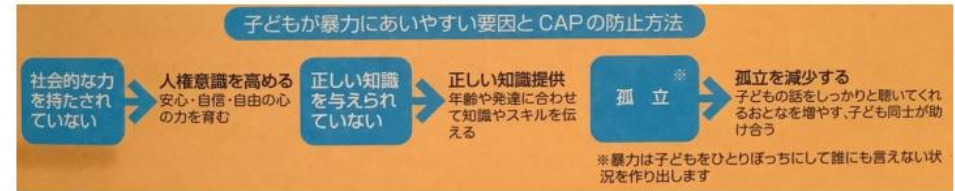
【誘拐】(知らない人からの暴力)

【性暴力】(知っている人からの暴力)

【大人に相談】(信頼できる大人に相談)

③ 中学生プログラム(ワークショップ 100 分+トークタイム 20 分) X 2 日間

1 日目	2 日目
○暴力とは何か ○人権について～安心・自信・自由～3 つの権利 ○ロールプレイとグループ討論 【痴漢】 ・護身術(とにかく逃げるために) ・同性愛について ○ロールプレイとグループ討論 【いじめ】 ・いじめられた人と周りの人の気持ち ・いじめられた人と周りの人が出来る事 ○アクティビティー「気持ちを話す・聴く練習」 ○トークタイム(復習と相談の時間)	○ロールプレイとグループ討論 【親からの押し付け、体罰】 ・「男らしさ、女らしさ(ジェンダーの偏見)」 ○ロールプレイとグループ討論 【知っている人からの性暴力】(or『恋人間の暴力』) 【友だちからの圧力】 ○アクティビティー「動いて選択(賛成反対)」 ・男の役割、女の役割が明確な社会について ・親から子への体罰について ○トークタイム(復習と相談の時間)



「子どもワークショップ」はとても楽しい時間です。暴力という怖いテーマについて安心して学べる配慮が

されていて、暴力が起こってからではなく、**予防教育**で子どもたちが漠然と抱いていた不安が減少し、被害者、加害者だけでなく、すべての子どもに伝えることができます。

ワークショップでは、子どものすべてを**尊重**しながら進めます。ですから子どもたちは安心して、自分の気持ちを大切にしながら、自分の考えを表現することができます。

CAP は、一人ひとりが主体的に見たり、聞いたり、やってみたりというワークショップ(参加体験型学習)の方法をとっています。一方的に教えられた知識ではなく、**自らの心と体を使って得た知識**は、その後も**実際に使える選択肢**として子どもの心の中にとどまるでしょう。

「中学生プログラム」では、思春期の子どもたちの抱える身近な問題が盛り込まれています。

すでに暴力の被害者や加害者になっている子どもにとって、いや(NO)って言ってい、逃げる(GO)こともできる、誰かの力を借りよう、**相談(TELL)**は勇気のある行動だという CAP のメッセージは子どもの心の奥深くに届き、大きな気づきを起こしていきます。

子どもたちはロールプレイやディスカッションなどを通して、自分の中の力に気づき、怒りは自分にとって何が大切かを教えてくれる気持ちであり、どんな状況でも**行動の選択肢**があることを学びます。



「トークタイム」はワークショップの後、毎回実施し、ワークショップの復習や練習をしたり、相談を受けたり

ります。相談は勇気がいりますが、身近な信頼できる大人を探して相談できること、あきらめないで相談することを、これからの生活でもできるように練習したり、いっしょにできそうな**選択肢**を考えます。深刻な相談、緊急の相談を受けた場合は、本人の了解をとって施設職員や教職員の方に伝えます。